

さいたま市長年頭記者会見

平成23年1月5日（水曜日）

午前11時03分開会

○ 進 行        それでは、記者クラブの皆様、市長の年頭記者会見を始めさせていただきます。

                 進行のほうは、埼玉新聞さん、よろしく申し上げます。

○ 埼玉新聞        1月の幹事社を務めます埼玉新聞と申します。明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

                 それでは、早速ですが、市長から年頭あいさつをお願いします。

### 市長年頭あいさつ

○ 市 長        それでは、皆さん、新年明けましておめでとうございます。

                 昨年中は、市政各般にわたりましてご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。今年もどうぞよろしくお願いいいたします。

                 さて、昨年を振り返りますと、「しあわせ倍増プラン2009」に基づきまして、土曜チャレンジスクールやシルバー元気応援ショップの実施、また「E K I Z U N A サミット・フォーラム in さいたま」の開催など、市民一人一人が幸せを実感できるまちへと着実に歩みを進めてまいりました。

                 昨年12月には、市民の皆様とともにしあわせ倍増に向けた仕組みをつくり、少ない予算で大きな効果を生む生産性の高い都市経営の実現を図るために、「行財政改革推進プラン2010」を策定をしたところでございます。3つの基本姿勢、責任と共感・共汗、徹底した現場主義、公平・公正・開かれた市政のもと、「子どもが輝く“絆”で結ばれたまち・さいたま市」の実現に向け、市政改革の礎を築くことができた1年であったと考えております。

                 今年は、何度かお伝えしておりますとおり、大変厳しい財政運営が求められております。このような中であっても、行財政改革推進プラン2010をエンジンとして、認可保育所の増設などの待機児童ゼロプロジェクトの推進や、土曜チャレンジスクールの拡大、多目的広場の整備、下

水道普及率90%達成に向けた整備、E K I Z U N Aプロジェクトの推進など、市民一人一人が幸せを実感できるさいたま市の実現に向けまして、しあわせ倍増プラン2009に全力で取り組んでまいりたいというふうに考えております。

また、今年は、さいたま市が誕生して以来、10周年を迎える記念すべき年であります。今や人口123万人を超える大都市へと発展をした本市でありますけれども、ここに至るまでには先人たちのまちづくりにかけた情熱や、知恵と工夫があったことは想像にかたくありません。私は10周年を機に、市民の皆様と、これからの100年に向けた夢をともに描いてまいりたいと考えております。

昨年、全国民に感動を与えた小惑星探査機「はやぶさ」の帰還も、夢を持ち、その夢をあきらめなかったことによるものであります。「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。ゆえに、夢なき者に成功なし」。これは吉田松陰の言葉であります。

市民の皆様と、さいたま市の将来、100年後への夢を共有し、その夢のために今なすべきことを考え、責任と共感・共汗のもと、市民の皆様とともに、希望と絆で結ばれたさいたま市を創造してまいりたいと考えております。

以上、簡単でありますけれども、平成23年の年頭に当たりまして私の考え方を申し上げさせていただきました。本年も皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

#### 幹事社質問

##### 今年1年の抱負と展望について

##### 来年度の予算編成市長査定の心構えについて

○ 埼玉新聞

それでは、幹事社として代表質問させていただきます。

質問は2点あります。まず、今年は、さいたま市誕生10周年を迎えます。また、市長就任から3年目を迎え、折り返し地点を迎えますけれども、今年1年の抱負と展望をお願いします。

○ 市長

ちょうどさいたま市は、まさに21世紀の幕あけを飾る2001年、平

成13年の5月に誕生したわけであります。それから数えましてちょうど10年目、今年の5月が満10歳の誕生日迎える大変重要な、また記念すべき年であると私自身は認識をしております。入庁してちょうど10年目を迎える職員の皆さんにキャッチフレーズを考えていただきまして、「これまでの10年、これからの100年」というのがこの記念事業の大きなテーマ、キャッチフレーズ、決定をいたしました。これからこの10周年に当たって、まさにさいたま市のこれからの夢になるようなキーワード、あるいは関連する事業をさいたま市のみならず、全国に発信をしていきたいと考えております。そして、事業実施するに当たりましては、職員が全員参加をし、ボランティアという形もあるでしょう、あるいは仕事という形もあるでしょう、いろんな形で全職員がこの10周年のさまざまな事業に参加をしていただいて、これから職員としてなすべきことを皆さんで考えていただきたい。そして、できるだけ多くの市民の皆さんにも参画をいただいて、これからのさいたま市の夢、ビジョンと一緒に考えていく大変貴重な機会にしてみたいというふうに考えております。

今年の10周年の記念事業についてはですね、10月にその記念式典あるいはメインになるイベントを予定をさせていただいております。食、文化あるいは区の個性をテーマとしたイベントを検討しているところであります。子供たちから高齢者の皆様まで世代、それから性別を超えて多くの皆さんが参加できる、そうした記念事業にしてみたいというふうに考えております。

また、あわせて先日も、発表しましたけれども、この右側にあります、このシンボルマークを活用して、それぞれのいろんな団体でも、この10周年を記念している事業を考えていただき、市を挙げて、市民全体でこの10周年の記念という意味を考えていただければというふうに考えております。

私からは以上です。

- 埼玉新聞      2点目としましては、来年度予算編成の市長査定が明日から始まると思いますけれども、市長査定について心構えをぜひお願いします。
- 市長          そうですね、まず市長査定が明日からスタート、いよいよします。明日から12日まで5日間かけまして、この市長査定、新年度予算編成を行う

わけでありますけども、平成22年度の予算編成に当たっては、しあわせ  
倍増プラン2009に基づきまして市民一人一人が幸せを実感できるさい  
たま市への礎を築くことを目標として行われた予算でありますけれども、  
平成23年度の予算編成におきましては責任と共感・共汗、徹底した現場  
主義、公平・公正・開かれた市政の3つの基本姿勢のもとにコミュニティ  
を再生をしていく、家族の絆、地域の絆、そしてさいたま市全体の絆を深  
めて、市全体が一体となって未来を築いていく、「子どもが輝く“絆”で結  
ばれたまち」の実現に向けての予算編成にしていきたいと思いますというふう  
に考えています。

また、平成23年度は、先ほどもお話しさせていただきましたが、さい  
たま市が誕生してちょうど10周年を迎える記念すべき年でもありますの  
で、この10周年の記念事業についても予算化をしっかりと果たしてい  
きたいというふうに考えています。

以上です。

#### 関連質問

- 埼玉新聞 代表質問に関して質問のある方は、質問をお願いします。
- 時事通信 済みません、時事通信と申します。  
予算編成の関係でお伺いいたします。目指される形のコミュニティの再  
生というのなんです、余りにも抽象的過ぎるので、もうちょっと具体的  
に教えていただきたいんです。
- 市長 前回も少しお話ししましたが、市民が積極的に市政に参画しやす  
い仕組み、事業を行っていくことが必要だと思っています。今年度も土曜  
チャレンジスクールあるいは放課後チャレンジスクールというようなこと  
でやらせていただきましたけども、それらをさらに拡大をしていくとい  
うのが1つあります。  
それから、介護支援ボランティアですとか、あるいはボランティアポイ  
ント制度みたいなものをですね、今検討を進めています。これは、ちょ  
うど団塊の世代の皆さんが地域に、今までどちらかというと東京のほうに  
出ていった方々がさいたま市に、地元に戻ってくるちょうどいい機会だ  
と私自身は思っております、そういった皆さんを、地域デビューとい  
うかですね、地域の中にいろんな形で参画をいただく、いろんな事業に協力

をしていただくための入り口と、それを継続していくためのやっぱり仕組みが必要だと思っておりますので、そういったものに取り組んでいこうということ考えさせていただいています。

○ 時事通信      ちょっと関連してお伺いしたいんですけども、前回もお伺いしているんですが、子ども手当の関係で、年末の政令市会議等で市長は、入れるも入れないもまだ考えたいというコメント出されて、上田知事がですね、入れるということを表明されているんですけど、改めて市長のですね、お考えをお聞かせいただきたいんです。

○ 市 長      これまで年末を含めてですね、政令指定都市市長会、それから全国市長会などでもいろんな動きがありました。また、先般もちょうど現場から国を変える市長会の、私は参加できませんでしたが、状況なども聞いて報告を受けておりますけども、そういった状況も勘案をしながら、それから最終的に予算の中にですね、新たな交付金ということで500億円プラス交付税措置で1,000億ぐらいの市長裁量の子育て支援策についても盛り込まれているというようなこともございます。いろんな総合的なことを考えて、明日から行われる市長査定で最終的に決めるというふうにしていきたいと思っております。

○ 埼玉新聞      そのほか質問がある方は、各社フリーでお願いします。

○ 産経新聞      産経です。

予算編成、去年と違うところってあるんですか。

○ 市 長      それはプロセス、中身ということですか。

○ 産経新聞      中身です。こういう部分で手厚くするとか。

○ 市 長      そうですね。前はかなり一つ一つ、いわゆる7%シーリングというのを全体にかけさせていただいて、それで、そこに入らなかった重要なもの、あるいは市民生活に直接いろんな影響があるものについては、復活予算、チャレンジ予算ということで、ちょうど市長査定の中で幾つか復活をさせていただいたり、手厚くさせていただいたものもありました。今回は、いわゆる一律のシーリングはかけずに、局ごとの局マネジメント予算という形で、それぞれの局が何を優先すべきなのかということ局ごとに考えてもらって、3%から7% (会見中訂正「10%」)削減をしてやっていただいています。その中で、新たなチャレンジ予算であったり、あるいは平成

23年度がちょうど10周年という記念すべきときでもありますので、それらに関連した予算等々については別枠で査定をさせていただいていますので、それらも含めて、また先般も一部公開させていただきましたけど、区からのアイデア枠というのも創設をさせていただきましたので、そういったものなどを総合的に勘案して、今年度は市長査定を行っていくという方針にしています。

中身という意味では、大きな枠としてはそういった部分が昨年度とはちょっと違うということではないかと思っています。

### その他

#### 市長が描く100年後の夢について

○ 埼玉新聞 済みません。市長がおっしゃられる100年後の夢ということなんですけれども、随分スパン長いんですが、何か具体的にですね、描いている夢があったら教えてください。

○ 市長 そうですね。1つは、今政令指定都市市長会で「特別自治市」というものを創設を提案しています。これは、政令指定都市という制度はですね、簡単に言うと市と県の2つの権限が合わさったという言い方をよくしますけども、でもかなりの部分が、実を言うと県に権限が残っている部分も多くございます。私たちが主張しています特別自治市というのはですね、そのエリア内の市と県の権限をですね、基本的にはすべてを移管させていただいて、その地域のことはその地域の中で決めていこうと、判断をしていこうと、運営をしていこうという制度でありますけども、そういったものを今国の地域戦略会議(会見後訂正「地方行財政検討会議」)の中の部会の中でもですね、代表に仙台市の市長さんに入らせていただいて議論を、あるいは報告、発表していただいたりもしています。さいたま市としては、その特別自治市というものを実現していきたいというのが一つあります。

それから、もう一つはやっぱり日本一健康で元気なまちをつくっていきたいという思いがあります。これは、やはり人間の幸せにとっては大きな要素の一つが、健康で長生きをすることだと思っています。ですから、健康で長生きをすることは、市民一人一人にとっても非常に幸福感につながりますし、私たち行政にとってもですね、いいことだと思っておりますので、その基盤をですね、つくっていく。それもただ、保険制度というか、

健康増進のための施策をやるだけではなくて、もう少し総合的な視点からですね、検討していくような。今筑波大学の先生なんかはスマート・ウェルネス・シティ構想などというようなことで提案をされていますけども、そういうかなり広義なまちづくりだとか、あるいは安全対策だとか、あるいは農業だとか、経済だとか、そういういろいろな視点を含めた形の中で日本一の健康都市というものをつくっていきたいというふうに思っているのが2つ目ですね。

それから3番目は、やっぱり教育日本一の都市をつくっていきたいという思いがあります。さいたま市は、学力のレベルでは、これは全国でも有数のトップクラスのレベルであると思っています。それを学力ということだけではなくて、体力、それから徳力というか、基本的な生活習慣というかですね、そういったものをきっちりと身につけていく、そういった地域をつくっていきたい。これもやはり教育、学校という現場だけではなくて、地域が一緒になってつくり上げていかなければいけない分野だと思っています。ですから、ソフトの分野でありますから、建物を建てたからすぐにはできるというものではないので、こういった日々の積み重ね、今回も土曜チャレンジスクールだとか、あるいは学校安全ネットワークだとか、いろんな取り組みを私たち今させていただいていますけども、そういったものを日々積み重ねていくことによって実現ができる夢だと思っておりますので、そういったことを私としては実現をしていきたい。

それから、まちづくりという視点では、これ今ハードの部分は非常にお金がかかって、区画整理をするにしても、あるいは再開発をするにしても、ものすごく時間とお金がかかるという分野でありますので、やはりこの東日本のちょうど玄関口という、そういった地域的な特性を持っておりますし、また交通の利便性も非常に高い都市でありますので、そういう意味で東日本の皆さんにとっても首都圏の入り口として、また首都圏から見ても東日本の玄関口として、両方の位置づけがあると思っておりますので、それにふさわしいまちづくり、これは大宮駅周辺の戦略ビジョンなどを今年度策定させていただきましたけども、そういったものをベースに、さらに発展をさせていくということが必要だと思っております。そういったことをしっかりと実現をしていければなど。

今年度、23年度の中で、大学だとか、あるいは市民の皆さんとか、いろんな方々にですね、それぞれが持っている、できれば夢を出していただいて、私自身が考えている夢とですね、すり合わせをしながら、あるいはともに議論をし、またともに考えながらですね、さいたま市が目指すべき100年後の姿みたいなものをですね、私たちとしては取り組んでいくその第一歩に、そういう年に今年はずむしていきたいと思っておりますので、私自身も私自身の考えている夢等々についていろんな場面でお話をしていきたいと思っておりますし、市民の皆さん、あるいはいろんな事業者の皆さん、いろんな方々からですね、そういった夢を寄せていただく中で、100年後のさいたま市があるべき姿、どうしても行政の計画ですと10年とか、比較的中期的なスパンで物を考えたり、実施をしていくという部分がありますけれども、やはりもう少し超長期的な視点もしっかりと持ってまちづくりを進めていく、あるいは行政運営をしていくということが必要ではないかと私自身は思っておりますので、そういったことをやる年にも、できればしたいなと思っております。

#### 埼玉改援隊について

- 日本経済新聞　　ちょっと話は変わるんですけども、埼玉改援隊のことでちょっとお伺いしたいんですが、年明けに設立の届け出をするということだったんですけども、それはしたのかどうなのかというのが1点。
- 市　　長　　後ほどリリースをさせていただく予定ですけど、1月の6日に県の選管のほうに提出をさせていただく予定です。それで、8日の日にですね、この間十分お話しできませんでした共通政策と地区ごとマニフェストについても発表させていただこうというふうに思っています。
- 日本経済新聞　　あともう一点、それに関連して、設立の記者会見後にですね、市長のほうに届かれた何か反応とか反響というのは、どういったものがあったのかというのをちょっと教えてほしい。
- 市　　長　　そうですね。首長さんで参加をしてくださるということで表明してくれる方もいらっしゃいますし、あとメールで、県会議員の、候補者で参加をしたいという方もいらっしゃいましたけども、基本的には基礎自治体、市町村というかですね、そこをベースに私たち考えておりますので、ちょっとそれに対するお答えは十分に返しておりませんが、そういった声



が寄せられたりもしていますし、あと市民の皆さんのレベルでは、ちょうど年末でしたので、多くの方々とまだお目にはかかっておりませんが、新しい取り組みをしていくということについては皆さん非常に前向きにね、取り上げていただいているというふうには思っておりますけども、ただ具体的に何をやるかというところはまだ見えていないので、余り細かい具体的な話にまでは至っていないということです。

○ NHK 済みません。その関連で、その首長の方で参加したいという方はどれくらいいらっしゃるんですか。

○ 市長 とりあえずこれから呼びかける段階なんですけど、呼びかける前に直接アプローチがあった方がいらっしゃいましたので、その方も6日の日に、今1名ですけども、参加をすることになると思います。

○ NHK どなたですか。

○ 市長 その時に。

#### 昨年を振り返っての反省などについて

○ NHK あと、ちょっとまた話戻ってしまうんですが、去年1年を振り返って、反省点ですとか、ちょっとやり残したこととか、失敗だと感じたことというのはあるんでしょうか。

○ 市長 そうですね。これまでも言ってきましたけども、就任をしてちょうど1年6カ月間、基本的には基礎づくりをしていこうという期間だと私自身は思っていましたので、その基礎づくりのためのビジョンづくり、あるいは仕組み、それから人づくりのための基盤みたいなものはつくってこれたかなというふうには思っていますが、ただ一方で、まだまだいろんな事務手続上のミスがあったり、いろんな課題がですね、私自身が想定していた以外にもいろんな課題がやはりあるということも出てきた年でもありましたので、そういった問題に対してどのように迅速に対応していくのか、再発防止に努めていくのか、これらについてはきちっと、現状でも既に幾つかやっておりますけれども、来年度に向けて、あるいは今年度ですね、それらをしっかりとやっていかなければいけないというふうには感じております。特に事務上のミスだとか、あるいはいろんな事件もございました。職員の綱紀の問題ですね、そういったものもしっかりやっていかなければいけない。仕組み自体がですね、まだまだ十分チェックし切れていないとい

う部分がかなり組織としてあるという認識を持っていますので、そういった部分についてもしっかりと取り組んでいきたいというふうに考えています。

### 新年度予算について

○日本経済新聞 来年度予算の編成のときの考え方なんですけれども、コミュニティの再生とか教育とか、その辺が重視されているのはわかるんですけども、例えば経済面とかで、例えば菊池プレス工業がさいたま市のほうに本社移転、来年度から移転してきたりとかというふうなところで、本社機能を結構さいたま市のほうに移すというところが少しずつ増えてきていると思うんですけども、その辺で産業的にも一つ核となる都市になるのかなと思ったんですが、その辺で中小企業への支援とか、経済面でどう行政が役割を果たしていくのかというのが、基本的な考え方として見えないんですけども、その辺についてはどう考えていらっしゃるのか。

○市 長 その辺につきましては、歳入を増やすという意味でね、大変重要な視点だと思っておりますし、昨年からですね、ずっと電気自動車の普及、EKIZUNAサミット・フォーラムというのを開催してきました。これは、一つは環境先進都市を目指すということもありますけども、それだけではなくて、さいたま市の成長戦略の一つになればという思いでやってきました。そういう意味で、直接的なものではないかもしれませんが、菊池プレスが本社をさいたま市に持ってきてくださったというのも総合的な視点で言えば、そういったことも要因の一つではないかと思っております。今埼玉大学、芝浦工大などを含めてオープンイノベーションということで産学官の連携を進めていたりですね、これから発展していく産業の芽というかですね、そういったものを今一生懸命私たちもつくっておりますので、それらをいかに広げていくか、今年でいきなりいろんなものが見えてくるかどうかわかりませんが、そういったものがしっかりと根づいてくる年になるのではないかという期待感を持っています。私自身も現場、幾つかいろんな企業を回らせていただいて、さいたま市には世界のシェアの3割、4割、あるいは7割とかというものを持っているですね、企業もたくさんあったりですね、私たちが、私自身が知らなかった、あるいはさいたま市民の皆さん、まだまだよく知らない企業であっても、すごい企業

は実を言うとたくさんある。それだけ経済的に発展する要素をたくさんもった経済エリアというか、企業がたくさんあるということが私自身もこの1年半の活動の中ですごく感じたところでもありますので、そういう意味では電気自動車、環境関係の技術ですね、そういったものを都市として実験をしながら、技術を高めて製品化をしていくということが一つ。それから、これから発展するであろう健康とかですね、福祉の分野に、今さいたま市は工学系ですね、企業が日本一集積をしている地域でもありますので、そういった産業からうまく転換をしていくというのでしょうか、そういった分野に進んでいくとかですね、産業政策という分野でも少し長期的な視点も持ちながら、企業さん、あるいは経済の活性化、あるいは雇用対策に向けて、今年はさらに昨年以上に1歩も2歩も進んだ形のことができるんじゃないかというふうに私自身は思っております。

○日本経済新聞      じゃ、その辺は市長査定で入ってくるという。

○市 長              そうですね、そういった部分も入ってくると思います。

○日本経済新聞      わかりました。

#### 統一地方選の争点について

○ 埼玉新聞          今年は統一地方選挙の年になりますけれども、市政にとって争点となり得るような課題というのは、どういうことをポイントとして考えられていますでしょうか。

○ 市 長              そうですね。個別的にはいろんなテーマが出てくるとは思うんですけど、1つは私自身が思っているものとして、やっぱり今までのようにですね、いわゆる金銭給付的なものをたくさん出せる時代ではなくなってきたので、それをいかにサービスの質を下げずにですね、やっていけるか、市民の皆さんに満足度を十分に持っていただけるか、そういう行政自体が大きく変わらなければいけない転換期だと私自身は思っているんですね。ですから、これは市民の皆さんにとっても、全員が手放しで賛成をしてくれるものばかりではないと思います、個別のことで言えばですね。でも、それらをやっぱり理解をしてもらって、一緒につくり上げていくことをしなければいけない大きなターニングポイントになる選挙だというふうに私自身は思っていますので、個別的にはいろんなものが出てくるとは思いますけれども、そういったものも含めて提案をしていく選挙にしていきたいというふ

うに思いますし、それをやっぱり市民の皆さんに訴える選挙をぜひやってもらいたいという思いありますね、はい。

○ 埼玉新聞

ほかよろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。以上をもって質問を終了させていただきます。

○ 進 行

どうもありがとうございました。

以上をもちまして市長の年頭記者会見を終了させていただきます。

次回の定例記者会見は、1月28日金曜日13時30分を予定していますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

午前11時33分閉会

この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後訂正された文言等については「会見後訂正」とし、下線を付しています。